

# 感動の全校修養会でした！！

11月4日の午後から5日にかけて、遺愛で全校修養会が開かれました。毎年この時期にクリスチャンの方で、医療、福祉、環境、平和、教育などの分野で良き働きをなされている先生をお呼びして、学ぶ機会が全校修養会です。今年で58回目となります。講師としてお呼びしたのは、山梨県で自殺予防のための「いのちの電話」を立ち上げ、76歳の現在も山梨県警察委嘱カウンセラーとして、犯罪被害者支援にあっている臨床心理士の宮崎美千代先生でした。2日間で3回の講演をしていただきましたが、生徒の皆さんは顔をしっかりとあげて、本当に熱心に聞いていました。



特に印象深かったのは、東京で「いのちの電話」に初めて関わった時のお話で、自殺をほのめかした後に無言になった男性の電話に夜から明け方まで、15分おきに語りかけ、明け方、部屋に太陽の光が差し込んで来たときに、7時間ぶりに電話口から声が聞こえてきて感動したことを語り、悩む人に寄り添うことの大切さを教えていただきました。

また、宮崎先生自身の生い立ちを語られました。生まれてすぐに祖母から結核を感染し、かろうじて命は保ちますが、病弱のために小学校に通えない時代を過ごします。12歳の時にスレプトマイシンが日本にも輸入され、劇的に回復しますが、運動はできずに体力的に何度も挫折を味わったそうです。結婚後2度妊娠するのですが、子宮外妊娠で当時の医学では子どもを助けることが出来ず、特に2度目は、宮崎先生自身が生死をさまよい6000ccの輸血をして何とか助かりました。しかし、子ども好きなのに子どもを産めない体になったため、しばらく生きていく実感がなかったそうです。そのような時にご主人の「自分の子どもの子育てはできなくても子どもは育てられるよ！」というアドバイスもあり、幼稚園か小学校の先生になろうと志し、青山学院大学の教育学部に20代後半に入学します。教員免許の単位もとれ、教育実習に行ったところ、体力が無く子供達と一緒に遊べないことに気づき、教育の道をあきらめます。それで座ってできる心理学を学ぼうと改めて心理学科に編入して勉強し始めます。そのようなときに、重症の心身障害施設でポリオを患った青年と出会いました。手足に力が入らず、寝たきりの状態の青年に「今日の天気は晴れですか？」と語りかけられ衝撃を受け、「生きるとはどういうことか？」考えさせられました。それからほとんど全て現場で「生きることにハッデイがある人」と関わってきました。宮崎先生は今まで9度手術を受けています。脳腫瘍による手術もあり、その時、牧師が「生死は神さまが握っています。あなたにやらなければいけない仕事があるなら、神さまはあなたを生かしてくださいます！」と言ってくれたそうです。「若いときはずいぶん聖書に批判的で、本当に私はついていない！と思ったことや自暴自棄になったこともあります。人に八つ当たりしたこともありました。でも私のことを理解し、支えてくれる人がいたのが大きかった。そして神さまは、私たち一人一人を生かしてくださることを今では確信しています。」と宮崎先生は素直に語ります。特に作家の三浦綾子さんの本とマザーテレサの言葉が支えになったそうです。講演では他にもたくさん考えさせられ、感動させられました。最後の「講師を囲む会」には80人以上の生徒が自主的に集まり、宮崎先生のお話しに熱心に耳を傾けていました。とても素晴らしい感動の全校修養会になりました。2010年11月8日